

学部・大学院研究科における
教員養成プログラムのアクレディテーション基準
2006年版

全米教員養成教育アクレディテーション協議会

ユニットの基準

概念的枠組み

概念的枠組みは、P-12 スクールにおいて効果的に専門的業務を行う教育者の養成を目的としたユニットの取り組みについて、共有すべきビジョンを設定し、プログラム、コース、教育方法、候補生（candidate）に期待される学習成果、学識、サービス、ユニットのアカウンタビリティの方向性、を規定するものである。概念的枠組みは知識に基づき、明確に記述され、共有され、首尾一貫し、ユニットおよび／または教育機関の使命と合致し、継続的に評価される。

基準 1：候補生の知識、技能、資質

教員あるいは学校専門職員として学校勤務の準備をする候補生¹は、あらゆる生徒²の学習を支援する上で要求される内容的、教育学的および専門職業的知識、技能、資質を有するとともに、それを実証すること。そのアセスメントにおいては、候補生が、専門職業、州、教育機関³それぞれが設定する基準を満たしていることを示すこと。

基準 2：アセスメント・システムとユニットの評価

ユニットは、申請者資格、候補生のパフォーマンスと卒業生のパフォーマンスについて、また、ユニットとそのプログラムを評価し改善するためにユニットの運営に関して、データを収集して分析するアセスメント・システムを備えていること。

基準 3：現場体験と実習

ユニットとユニット連携校は、現場体験や臨床実習を計画、実施し、評価して、教員志望の候補生と学校専門職員があらゆる生徒の学習を支援する上で必要とされる知識、技能、資質を延ばすとともに、それらを実証すること。

基準 4：多様性

ユニットは、候補生があらゆる生徒の学習を支援する上で要求される知識、技能、資質を習得し応用するために、カリキュラムと経験を計画し、実施し、そして評価すること。ここでいう経験には多様な高等教育機関や学校の教員、多様な候補生、P-12 スクールの多様な生徒との共同作業が含まれる。

¹ 「候補生（candidate）」には教育に向けて準備する人物、職業的な開発を継続する教員、また、校長、学校心理士、学校図書館メディア・スペシャリストなど、学校のその他専門的な役割に向けて準備する人物が含まれる。

² 「あらゆる生徒」には、例外性のある生徒および異なる民族、人種、性別、言語、宗教、社会経済、地域／地理的出身の生徒が含まれる。

³ 教育機関の基準はユニットの概念的枠組みに反映されるとともに、候補生の能力を含むものである。

基準 5：教員の資格、パフォーマンス、開発

教員は資格を有し、候補生のパフォーマンスと関連して自らの有効性について検証するなど、学識、サービス、教育方法における最良の職業的実践の模範を示すこと。また、専門分野や学校の同僚と協働すること。ユニットは体系的に教員の実績を評価し、専門分野における発展を促進すること。

基準 6：ユニットの管理運営と資源

ユニットは、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準を満たす候補生の養成に向けて、教育体制、権限、予算、人材、施設、情報技術源を含む資源を有すること。

以下に、概念的枠組みおよび NCATE が掲げる 6 つの基準の内容を解説する。各基準に付された解説は、基準の重要な要素を扱ったもので、基準を満たすために要求される異なるレベルのパフォーマンスを記している。解説は全体的観点から解釈しなくてはならない。すなわち、基準の各要素に関して分離した判断を下すような方法で解説を利用してはならない。解説にある基準の要素の大多数には、意図的に特定の達成水準（基準不適合（unacceptable）、基準適合（acceptable）、望ましい成果（target））を構成する多数の特徴を含めている。ユニットは、特定の長を異なるレベルで扱う場合がある。解説には、基準の理論的根拠や各基準の意味に関する補足的な説明が含まれている。

概念的枠組み

概念的枠組みは、P-12 スクールにおいて効果的に専門的業務を行う教育者の養成を目的としたユニットの取り組みについて、共有すべきビジョンを設定し、プログラム、コース、教育方法、候補生に期待される学習成果、学識、サービス、ユニットのアカウントビリティの方向性、を規定するものである。概念的枠組み⁴は知識に基づき、明確に記述され、共有され、首尾一貫し、ユニットおよび／または教育機関の使命と合致し、継続的に評価される。

概念的枠組みは、ユニットの知的理念を記述する基盤となる。これが、各教育機関の卒業生がそれぞれに異なる所以である。

ユニットに属する教員は、ユニットとユニットプログラムのビジョンを方向付ける概念的枠組みの設定にあたり、職業共同体のメンバーと協働することが期待される。概念的枠組みは、カリキュラム、教育方法、現場体験、臨床実習、アセスメント、評価に一貫性を与える基盤となる。概念的枠組みは、P-12 の生徒の利益となるよう知識を習得、利用する取り組みを含め、職業上の責務とそれを支援する資質を明白にするものである。またそれは、多様性およびあらゆる生徒の学習を支援する教育者養成に向けた、ユニットの取り組みを反映する。さらに、テクノロジー統合により候補生と生徒の学習を促進する取り組みを反映する。また、専門職業および州の基準と、ユニットが期待する候補生の習熟度、教育者を養成するプログラムを合致させる背景となる。

概念的枠組みは、以下の構造的要素を提供する。

- ・ 教育機関およびユニットのビジョンと使命
- ・ ユニットの理念、目的、目標
- ・ 理論、リサーチ、実践から習得した知恵、教育方針を含めた知識基盤
- ・ 専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準における期待と合致した候補生の習熟度
- ・ 候補生のパフォーマンスを定期的に測定するシステム

初めて認定 (accreditation) を求めるユニットは、NCATE の認定を得る条件として、概念的枠組みの提出が必須の条件である。さらに、教育機関報告書の序章に概念的枠組みの概説を含めること。

認定を継続するための視察の準備をする教育機関は、継続報告書の序章に概念的枠組みの概説を含めること。概説には、枠組みの説明とその後の進展、そしてユニット、職業、州の基準やアセスメントの更新と概念的枠組みの改訂との関連性を含め、前回の視察以降の変更を含めなくてはならない。また、ユニットは、NCATE 年次報告書で、概念的枠組みの評価と結果として生じた変化を報告すること。

評価委員会 (Board of Examiners) のチームは、以下のように、概念的枠組みの証拠を

⁴ ユニットは、随意に、全プログラムに単一の枠組みを採用、あるいは各プログラムまたは複数のプログラムに異なる枠組みを採用して運営できる。

求め、得られた所見を (1)チーム報告書の冒頭、(2)チーム報告書の基準への対応について記述すべき場所の全てに記すこと。

概念的枠組みの基準への適合性の証明

共有ビジョン：ユニットの概念的枠組みは、P-12 スクールの教育者養成を目的としたユニットの取り組みについてのビジョンと目的を記述したものである。したがって、概念的枠組みは明確に記述され、知識に基づき、教育機関の使命と合致するものである。

一貫性：ユニットの概念的枠組みは、候補生のプログラムについて、カリキュラム、教育方法、現場体験、臨床実習、アセスメントを確実に一貫したシステムとして提供するものである。

専門職業的な取り組み⁵と資質：ユニットの概念的枠組みは、知識、教育能力、生徒の学習への職業的取り組みについて明確に記述する。(教員養成機関の) 教員が教員 (teacher) および学校専門職員を評価する際の資質の概略を記述すること。

多様性への取り組み：ユニットの概念的枠組みは、あらゆる生徒の学習支援を行なうことができる候補生の養成に向けたユニットの取り組みを反映し、多様性に関連する知識、資質、技能を、いかにカリキュラム、教育方法、現場体験、臨床実習、アセスメント、評価に統合するかという概念的な理解を提供するものであること。

テクノロジーへの取り組み：ユニットの概念的枠組みは、教育技術を利用してあらゆる生徒の学習を支援できる候補生の養成に向けた、ユニットの取り組みを反映するものであること。また、いかに教育技術および情報技術に関連する知識、技能、資質をカリキュラム、教育方法、現場体験、臨床実習、アセスメント、評価に統合するかという概念的な理解を提供するものであること。

候補生に期待される学習成果の専門職業および州の基準への適合性：ユニットの概念的枠組みは、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準に基づいて候補生の能力を開発し、測定するための背景を提供するものであること。

⁵ 「取り組み」とは、候補生の学習とそれが生徒の学習に与える効果に関して、ユニットが実行する準備のある内容を指す。

基準 1 候補生の知識、技能、資質

教員あるいは学校専門職員として学校に勤務する準備をする候補生⁶は、あらゆる生徒⁷の学習を支援するうえで要求される内容的、教育学的、専門職業的知識、技能、資質を有するとともに、これらを実証すること。アセスメントは、候補生が専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準⁸を満たしていることを示すこと。

教員志望の候補生に必要な知識内容

(教員を目指す候補生、継続教育を受けている教員の両者に求められる準備)

基準不適合

教員志望の候補生は指導予定の教科に関して十分な知識を有しておらず、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が示す重要な原則あるいは概念の例を示すことができない。免許交付に試験を要する州において、ユニットのプログラム修了者の 80%未滿しか学問的な内容の試験に合格しない。

基準適合

教員志望の候補生は指導予定の教科に関して十分な知識を有し、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が示す重要な原則あるいは概念を説明することができる。免許交付のために試験を要する州において、ユニットのプログラム修了者の 80%以上が学問的な内容の試験に合格する。

望ましい成果

教員志望の候補生は、指導予定の教科に関して、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が規定するとおり、十分な知識を有する。教科に関する追求、批判的分析、統合によって、教科に関する知識を実証する。免許の交付に試験を要する州において、

6 候補生には教育に向けて準備する人物、職業的な開発を継続する教員、また、校長、学校心理士、学校図書館メディア・スペシャリストなど、学校のその他の専門的な役割に向けて準備する人物が含まれる。

7 「あらゆる生徒」には、例外性のある生徒および異なる民族、人種、性別、言語、宗教、社会経済、地域/地理的出身の生徒が含まれる。

8. ユニットは、該当する場合は州による資格試験を含め、包括的な一連のアセスメントによって候補生のパフォーマンスを測定する。知識および技能は、試験、ポートフォリオ、論文、プレゼンテーション、事例研究などの方法で測定される。知識、資質、教育パフォーマンスの測定は現場体験と臨床実習の期間中に実施される。そこには P-12 の生徒の学習に関連した候補生の分析も含まれる。ユニットは、候補生のパフォーマンスに関する情報を、追跡調査、雇用者による評価、就職率から得た卒業者に関する情報を用いて補完する。プログラムが州の資格試験の合格点に達しない場合、ユニットは基準を満たすことを証明するため、説得力のあるその他証拠を提供しなくてはならない。

ユニットのプログラム修了者全員が学問的な内容の試験に合格する。

学校専門職員に必要な知識内容

基準不適合

学校専門職員候補生は当該分野に関する十分な理解を有さず、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が示す重要な原則あるいは概念の例を示すことができない。免許交付に試験を要する州において、ユニットのプログラム修了者の 80%未満が学問的な内容の試験に合格する。

基準適合

学校専門職員の候補生は当該分野に関する十分な理解を有し、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が示す重要な原則あるいは概念を説明することができる。免許交付に試験を要する州において、ユニットのプログラム修了者の 80%以上が学問的な内容の試験に合格する。

望ましい成果

学校専門職員の候補生は、当該分野の中心的概念、追求ツール、構造に関して、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準に規定されており、また、追求、批判的分析、統合により実証される十分な知識を有する。免許交付に試験を要する州において、ユニットのプログラム修了者全員が学問的な内容の試験に合格する。

教員志望の候補生に必要な教育内容の知識

(初回および継続的な教員の養成)

基準不適合

教員志望の候補生は、テクノロジーを統合し、生徒の文化的背景と内容の知識に基づいて学習経験の開発を促進し、学習を実現するという観点で、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準に規定されている内容と教育との関連性を理解できない。

基準適合

教員志望の候補生は、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が規定する内容および教育知識と教育技能を参照する指導方法に関して、広範囲の知識を有し、学習を支援できる。教員志望の候補生は、明確かつ有意義な方法で内容を提示し、またテクノロジーの統合によって、生徒の教科学習を促進する。

望ましい成果

教員志望の候補生は、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が規定する教

育内容に関して、十分な知識を示す。指導予定の教科を徹底的に理解しており、多様な説明や指導方法によって、あらゆる生徒の学習を実現できる。生徒に対して、意欲を喚起し、明確で、関心を引き付ける方法で内容を提示し、適切にテクノロジーを統合する。

教員志望の候補生に必要な職業的および教育的な知識と技能

(初回および継続的な教員の養成)

基準不適合

教員志望の候補生は専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が規定する職業的および教育的な知識と技能を修得しておらず、学校、家庭、地域社会の文脈における知識の不足、あるいは、生徒の以前の体験を参考にして学習体験を展開する能力の欠如が示される。

基準適合

教員志望の候補生は専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が規定する職業的および教育的な知識と技能を応用して、学習を促進できる。学校、家庭、地域社会という背景および生徒の以前の体験を考慮して、有意義な学習体験を開発する。

望ましい成果

教員志望の候補生は、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が規定する職業的および教育的な知識と技能に関して、十分な知識を示す。有意義な学習体験を開発してあらゆる生徒の学習を促進する。自らの実践を検討し、必要に応じて調整し、学習を強化する。生徒がどう学習するか、どうすれば生徒が観念を把握できるか理解している。概念を生徒の以前の体験に結びつけ、知識を現実世界に応用する上で、学校、家庭、地域社会という背景を考慮する。

学校専門職員に必要な職業的な知識と技能

基準不適合

学校専門職員の候補生は、自らの分野の基盤となり、また専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準に規定されている専門的な知識を修得していない。リサーチやテクノロジーを利用する能力の欠如、あるいは自らが専門的なサービスを提供する学校の文化的背景を理解する能力の欠如によって、知識不足が示される。

基準適合

学校専門職員の候補生は、自らの分野に期待され、また、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準に規定されている専門的な知識を十分に有する。担当する生徒、家庭、地域社会に関する知識を有し、現行リサーチを実践に反映し、テクノロジーを実

践に活用し、専門的サービスによって学習を支援する。

望ましい成果

学校専門職員の候補生は、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準に規定されているとおり、自らの分野の専門的な知識を十分に有する。専門的業務に関連するデータの収集と分析を行い、自らの実践を検討し、リサーチとテクノロジーの活用によって学習を支援し、向上させる。

すべての候補生に必要な資質

基準不適合

候補生は専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が規定する専門的資質に精通していない。生徒、家庭、地域社会に取り組む上で、これらの資質の模範を示さない。

基準適合

候補生は専門家として期待される資質に精通している。生徒、家庭、地域社会に取り組む上で、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が規定する資質が反映される。

望ましい成果

候補生は、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準に規定された教育専門家に期待される資質を反映する方法で生徒、家庭、地域社会に取り組む。自らの資質を調整する必要がある場合、候補生はそれを認識し、調整計画を立案できる。

教員志望の候補生に必要な学習

(初回および継続的な教員養成)

基準不適合

教員志望の候補生は学習を正確にアセスメントできない。あるいは、生徒の開発段階や以前の経験に基づいて学習体験を開発できない。

基準適合

教員志望の候補生は、学習のアセスメントを行い、アセスメントを指導に活かし、生徒の発達段階あるいは以前の経験に基づいて有意義な学習体験を開発して、集中して学習に取り組む。

望ましい成果

教員志望の候補生は正確に学習をアセスメント、分析し、教育方法を適切に調整し、

学習を観察し、あらゆる生徒の学習に建設的な効果をもたらす。

学校専門職員に必要な学習

基準不適合

学校専門職員の候補生は、専門的な役割を学校で遂行することで学習を促進できない。学校における自らの職責に適合した、学習にとって建設的な環境を創造できない。専門的業務を行う上で、多様性と方針が意味する背景を理解しない。

基準適合

学校専門職員の候補生は、学習にとって建設的な環境を創造できる。専門的業務の対象である生徒の開発段階、生徒、家庭、地域社会の多様性、専門的業務を行う上で方針が意味する背景を理解し基礎とする。

望ましい成果

学校専門職員の候補生は、学習という枠内で、自らの専門的業務を批評、検討できる。学習を支援する教育環境を確立し、学習に関連するデータを収集して分析し、自らの職務と学校の枠内で学習を向上する方法を適用する。

補足説明：

国民は、子供の教員が内容に関する十分な知識を備え、あらゆる生徒が P-12 教育水準を満たすよう支援できることを期待する。教職の原則は、学習を指導の目標とすることである。NCATE が規定する基準 1 は、教員志望の候補生が内容あるいは教科を理解し、有効な指導を行うことができ、あらゆる生徒の学習を支援できることを要求して、この目標の重要性を強化する。専門的な学校要員は、例外なく、学習を支援する方法で各自の職務を遂行することが期待される。

大多数の州が採択している教員免許交付基準では、教員が全学習者のニーズに対応できる知識、技能、資質を実証することが要求されている。したがって、その他の専門教育者として P-12 スクールで指導あるいは勤務する準備を進める候補生は、ユニットの概念的枠組みに特定された学習習熟度を実証することが期待される。ユニットの概念的枠組みは、P-12 生徒を対象とする基準、全国的職能団体の基準、州の免許認定基準に合致していなくてはならない。

州の免許要件を満たせる教員志望の候補生の養成教育機関を支援する目的で、NCATE はそのユニットとプログラムの基準を INTASC (Interstate New Teacher Assessment and Support Consortium) の理念に合致させている。NCATE と INTASC は、何よりもまず、教員志望の候補生がこれら団体の定める規律内容を、中心的概念、追求ツール、構造を含めて理解することを要求する。

教員志望の候補生は、P-12 スクールの生徒を対象とする基準および教員養成を対象とす

る基準に定義されているとおり、指導予定教科に該当する専門基準を満たすことが要求される。候補生は、その他全国的な認定団体（例えば、National Association of Schools of Music、National Association of Schools of Art and Design など）が規定する職業的な基準、あるいは以下の教員を対象とする NCATE プログラム基準を満たす。

- ・ 幼児保育
- ・ 初等教育
- ・ 中等教育
- ・ 特殊教育
- ・ 第二言語としての英語
- ・ 中高および中等レベルにおける以下の分野
 - ・ 英語 ・ 数学 ・ 科学 ・ 社会 ・ コンピューター ・ 技術教育
 - ・ 保健 ・ 体育⁹

外国語など他の分野を対象とするプログラム基準は、現在開発中である。国および／あるいは州の現場査察前と現場査察中に必要な専門基準に対応したプログラム文書を、候補生のパフォーマンスデータを含め教育機関は提出しなくてはならない。

NCATE と INTASC は、さらに生徒の知的、社会的、個人的開発を支援する学習機会を提供する知識、技能、資質¹⁰を教員志望の候補生が実証することを期待する。教員志望の候補生は多様な学習者に応じた教育機会を創造できる。生徒が批判的に思考し、問題を解決し、実績を達成する技能の開発を促す。建設的な社会的相互作用、学習への積極的な取り組み、自発性を奨励する学習環境を創造できる。教室内での活発な質問、協調、協力的な相互作用を育成する。教科、生徒、家庭、地域社会、カリキュラムの目標に関する知識に基づいて、指導の計画を立てている。生徒の学業パフォーマンスのみならず社会的、身体的成長を評価し、評価結果を活用して生徒の動機付けや学習を最大限に高める。選択や行動が他者に及ぼす影響を検討し、継続的に評価して、職業者としての成長機会を積極的に追及できる。また、学校の同僚、保護者や家族、広範囲な地域社会の諸教育機関と関係を築き、学習と福利を支援することができる。

教員あるいは学校専門職員として学校勤務の準備を進める候補生には、学習および学校、家庭、地域社会という背景を理解する適切な職業知識の基盤が必要である。これらの候補生は教育の社会的、歴史的、理念的基礎、¹¹職業倫理、法律、方針に関連する知識を理解、

⁹ NCATE の教員養成プログラム基準および文書作成上の指示事項は、NCATE のウェブサイト www.ncate.org からダウンロードできる。これらユニット基準には、専門基準を示したプログラム一覧が付記されている。

¹⁰ このリストは州間新教員評価支援協会 (INTASC) 基準に基づく。INTASC の全文書には、各行動指針に関連する知識、資質、パフォーマンスが含まれている。全米州教育長協議会 (CCSSO) のウェブサイト www.ccsso.org/intasc.html から入手できる。

¹¹ 候補生が理解し応用できなくてはならない教育の社会的、歴史的、理念的基盤に関連した事項に関して、Council for Social Foundations of Education 推奨基準から情報を入手で

応用できる。認知発達や情動発達およびそれらの発達と学習の相関性を含め、児童や青少年がどのように学習し成長していくかを理解する。言語習得、文化が学習に及ぼす影響、例外性、¹²生徒集団や家庭や地域社会における多様性、学級および学校での一体性と公平を理解する。テクノロジーリテラシーや情報リテラシーを適切かつ効果的に指導に組み込み、学習を支援できる。教育やその他専門的な役割にリサーチを活用する重要性を理解し、教職の役割と責任を理解する。

あらゆる教職の候補生は、教育者に期待される資質を開発し、模範を示す。ユニットは、候補生の資質を、概念的枠組みの一部として明確に規定する。ユニットは、候補生における適切な職業的資質の開発を、体系的にアセスメントする。¹³資質については、通常、直接的にはアセスメントは行われない。生徒、家庭、地域社会との共同作業から、候補生のその他実績と合わせてアセスメントが行われる。

あらゆる教職の候補生は、学習に建設的な効果を実証することが期待される。教員および教員志望の候補生は、学習を職業上の中心課題とする。学校専門職員は、各自の職責に合致した、教育の場で学習を支援する建設的な環境を創造し、維持できる。

教員志望の候補生は、プログラムを通じてケーススタディおよび現場や他の経験からデータを収集し、学習のアセスメントを行い、学習と実践を分析する知識基盤を構築する。生徒作業を検討して学習成果を確認し、教授している概念の理解が困難な生徒を考慮した授業計画を策定することも考えられる。すべての教員志望の候補生は、実習中、学習を直接的に実証しなくてはならない。

大学院課程の経験を持つ教員は、教室における授業と学習の向上を目標として、知識と経験の基盤を発展させる。上級教員検定を目指し、全国教育専門職基準委員会（NBPTS）の提示内容を満たすように、さらに知識、技能、資質を開発する。これら候補生は、生徒への取り組み、学習を管理し観察する技能、自らの実践に関して体系的に思考する知的能力、経験から学習する能力、学問共同体の一員としての参画を実証する。¹⁴

学校専門職員として学校に勤務する準備を進める候補生は、職業、¹⁵州、教育機関の各基準を満たすために必要な知識、技能、資質を実証する。これらには、以下の職業を含む。

きる。

¹² 天賦の才能と優れた能力を含め、個別の指導および／またはその他の教育上の支援あるいはサービスを要求する身体、精神、感情の状態である。

¹³ 資質の考察には倫理規準が役立つ。倫理規準は、全米教育協会（NEA）を始め、多数の職業協会から入手できる。

¹⁴ 経験教員を対象とした提示および全国委員会によるアセスメントに関しては、NBPTS のウェブサイト www.nbpts.org から追加情報を入手できる。

¹⁵ これら分野に関する NCATE のプログラム基準および文書作成上の指示事項は、NCATE のウェブサイト www.ncate.org からダウンロードできる。これらユニット基準には、専門基準を示したプログラム一覧が付記されている。

- ・ 教育工学のスペシャリスト
- ・ 教授法のスペシャリスト
- ・ 読字のスペシャリストおよび読字指導主事
- ・ 校長、カリキュラムスペシャリストおよび教授法のスペシャリストを含む学校管理者
- ・ 学校図書館メディア・スペシャリスト
- ・ 学校心理士
- ・ 学校指導主事
- ・ その他、学校専門職員

これらの大学院課程候補生は、リサーチおよびリサーチ方法の応用能力を開発する。また、学習、学習が行われる社会的背景と文化的背景、各自の専門的職務として学習を支援する実践に関し、知識を養う。各自の職業的な役割に関連して学習に関するデータを収集して分析し、学習を支援する建設的環境を構築する方法で、学校環境のアセスメントを行うことが考えられる。国および／あるいは州の現場査察前と現場査察中に必要な職業基準に対応したプログラム文書を、候補生のパフォーマンスデータを含め教育機関は提出しなくてはならない。

この基準に関する文書の一次資料には、評価委員会（BOE）チームの現場査察に先立ち、国および／あるいは州による検討のために作成される候補生のパフォーマンスデータが含まれる。プログラム文書には、ユニットが内部で収集するパフォーマンス・アセスメント・データと、州の資格認定試験やその他のアセスメントの結果などの外部データが含まれる。

評価委員会（BOE）チームは、現場査察中、候補生がこれらの習熟度を開発している証拠を求める。

基準2 アセスメント・システムとユニットの評価

ユニットは申請者資格、候補生と大学院生のパフォーマンス、ユニットとそのプログラムを評価して改善するユニット運営に関し、データを収集して分析するアセスメント・システムを備えている。

アセスメント・システム

基準不適合

ユニットはアセスメント・システムの開発にユニットの職業共同体を参加させない。ユニットのシステムに、候補生のパフォーマンスの観察、運営とプログラムの管理と改善に利用する情報を提供するための、広範囲の総合的な一連の評価手段が含まれていな

い。アセスメント・システムが専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準を反映していない。プログラムの継続と修了に関する決定が、複数のアセスメントに基づくものではない。使用されるアセスメントが候補生の合格に関連しない。ユニットはパフォーマンス・アセスメントでの偏向原因を検証または排除する効果的な措置を講じておらず、あるいはアセスメントの手順の公平性、正確性、一貫性を確立する努力をしていない。

基準適合

ユニットは、その職業共同体と共に、概念的枠組みと職業および州の各基準を反映したアセスメント・システムを開発している。ユニットシステムに、候補生のパフォーマンス観察、運営とプログラムの管理と改善に利用する情報を提供するための、広範囲の総合的な一連の評価手段が含まれている。候補生のパフォーマンスは、プログラムへの入学時、適切な移行時、プログラム修了時に行われる複数のアセスメントに基づいて決定される。入学、プログラム継続、プログラム修了の決定に利用されるアセスメントが、候補生の合格を予測する判断材料となる。ユニットは、パフォーマンス・アセスメントでの偏向原因を排除する効果的な措置を講じ、アセスメントの手順の公平性、正確性、一貫性を確立する努力をする。

望ましい成果

ユニットは、その職業共同体を参加させて、概念的枠組みを反映し、職業および州の各基準に概略された候補生の能力を組み込んだアセスメント・システムを実施する。ユニットは、アセスメントから生じたデータの正当性と有用性を継続的に検証し、修正によりアセスメント技術や職業基準の変化に対応する。候補生のパフォーマンスは、プログラム修了までの複数の時点で行われる複数のアセスメントに基づいて決定される。データはパフォーマンス・アセスメントと候補生合格との強力な関連性を示す。ユニットはパフォーマンス・アセスメント手順の公平性、正確性、一貫性を確立するため、徹底した調査を実行する。また、これらの調査結果に合致する実践に変更を加える。

データの収集、分析、評価

基準不適合

ユニットは、ユニットの運営、プログラム、候補生に関するアセスメント情報と評価情報を、定期的かつ総合的に収集、編纂、分析しない。正式な候補生の苦情の記録を保持せず、あるいは苦情に対する決議を文書化しない。アセスメント・システムを維持する上で、適切な情報技術を利用しない。申請者資格、候補生能力、大学院生、ユニット運営、プログラムの質に関するデータを収集する上で、内外部からの複数のアセスメントを利用しない。

基準適合

ユニットは、申請者資格、候補生に期待される学習成果、大学院生の能力、ユニット運営、プログラムの質に関して、定期的かつ総合的なデータを提供するアセスメント・システムを維持する。内部および外部からの複数のアセスメントを活用して、申請者、候補生、近年の大学院生、教員、職業共同体のその他のメンバーからデータを収集する。正式な候補生の苦情記録、および苦情に対する決議文書を保持する。これらのデータは、候補生パフォーマンス、プログラムの質、ユニット運営を改善するために、定期的かつ体系的に編纂、集約、分析される。ユニットは、情報技術を活用して、アセスメント・システムを維持する。

望ましい成果

ユニットはアセスメント・システムを履行し、プログラムの質、ユニット運営、実務の当初数年を含めたプログラムの各段階における候補生のパフォーマンスに関して、定期的かつ包括的なデータを提供する。候補生、大学院生、教員、職業共同体のその他メンバーからのデータは、内外部からの複数のアセスメントに基づく。ユニットは、正式な候補生の苦情の記録、および苦情に対する決議文書を保持する。データは、候補生パフォーマンス、プログラムの質、ユニット運営の改善を目的として、定期的かつ体系的に収集、編纂、集約、分析、公表される。ユニットはアセスメント・システムを改善するために、さまざまな情報技術を開発、試験する。

プログラム改善を目的とするデータ利用

基準不適合

ユニットは、候補生と大学院生のパフォーマンスに関する情報などの収集データを、ユニットのコース、プログラム、現場体験の有効性を評価する目的に、一部分のみを利用する、あるいはまったく利用しない。評価の結果、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準を満たす候補生を養成する上で修正が有効であると示されても、コース、プログラム、現場体験を修正できない。候補生および教員は、ユニットのパフォーマンス・アセスメントに基づく形式的なフィードバックを定期的に提供されない。

基準適合

ユニットは、ユニットのコース、プログラム、現場体験の有効性を評価するために、定期的かつ体系的に、候補生および大学院生のパフォーマンスに関する情報を始めとするデータを利用する。プログラム評価とパフォーマンス・アセスメントのデータを分析し、必要性が示された場合には修正に着手する。候補生および教員のアセスメントデータは、パフォーマンスを検討し改善を促進する目的で、定期的に候補生および教員と共有される。

望ましい成果

ユニットは十分に開発された評価を有し、基本となるデータシステムと分析技術の双方を必要に応じて改正しつつ、評価間のより強力な関連性を模索し続ける。評価が必要性を示す場合に修正を行うだけでなく、あらゆる修正の効果を体系的に検討し、意図されたプログラムの強化が実現しており、また、いかなる不都合な影響も生じていないことを確認する。候補生および教員はパフォーマンスに関するデータを定期的に検討し、改善案を開発する。

補足説明

ユニットには、そのプログラムと大学院生が最高の質を備えていることを保証する職業的な責任がある。この責任を果たすには、情報技術を活用して情報を体系的に収集して評価し、情報を活用してユニットとそのプログラムを強化することが必要である。ユニットとそのプログラムは(1)指導とカリキュラムが専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準と合致している、(2)コース、現場体験、プログラムが有効である、(3)候補生が内容の知識を習熟し、学習に繋がる教育を実証し検証するアセスメント・システムから得られる情報を基盤とする。

専門学校要員の養成は動的かつ複雑な専門的業務であり、ユニットの継続的な計画と評価を必要とする。長期的なプログラムの再検討と向上によって、質を保証することが必要である。評価は、ユニットの概念的枠組みとプログラム目標を基盤とする、目的のある活動でなくてはならない。評価は、教員、カリキュラム、指導のほか、候補生の知識と能力のアセスメント手段を含む総合的評価でなくてはならない。手段自体が、教員、カリキュラム、指導、候補生パフォーマンスの重要な側面を伝達する上で、十分かつ適切でなくてはならない。

アセスメント・システムの公平性、一貫性、正確性、偏向排除を考慮する必要がある。特に、アセスメントが教員志望の候補生の多様な集団に及ぼしうる影響に、注意を払わなくてはならない。また、ユニットのアセスメントと評価では、多様な情報源—ユニット、現場体験と実習現場、一般教育と教科内容の養成コース、教員志望の候補生、大学院生、従業員—からの情報をいかに提供し、いかに建設的に利用するかを考慮しなくてはならない。データの収集分析のみならず、より広範囲なユニットの計画と評価において、技術が果たす役割は益々大きくなっていくであろう。

アセスメント・システムには、候補生およびユニット運営に関連するデータの収集分析の計画とスケジュールが含まれる。アセスメント・システムは、通常、以下の特性を備えている。

- ユニット教員は、アセスメント・システムの設計と履行において、職業共同体のメンバーと協働する。
- 候補生のアセスメントにおいては、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が参照ポイントとなる。
- ユニットはアセスメントを養成プログラムに組み込み、形成および総括の両方を目

的として継続的に実施し、持続的に候補生に対してフィードバックを提供する。

- ユニットは、候補生（1 学年、3 学年、学士課程後の候補生）の始業時に、複数の指標（例えば、3.0 GPA、基礎技能の習得の実証、一般教育知識、内容習得、人生経験と専門的業務経験）を使用し、優秀な教員となる可能性あるいは学校専門職員の役割を担う可能性を特定する。
- ユニットは、例えば入学時、実習前、プログラム修了前など、複数の時点で決定を下す。
- ユニットは多様な形態で複数のアセスメントを運営し、それらと候補生基準を一致させる。このアセスメントは、コース終了時の評価、候補生が書いたエッセーあるいは論文のほか、指導を目的とした課題（プロジェクト、日誌、教員による観察、協力教員の所感、ビデオテープなど）、授業関連の活動（授業計画、指導に対する生徒の準備状態の把握、適切なアセスメントの開発、生徒に対する指導成果検討、保護者、家庭、学校組織とのコミュニケーション）によって行われる可能性がある。
- ユニットは、州の検定試験、就任あるいは校内指導の年における評価、雇用者による報告書、追跡調査、州のプログラム検閲など、外部から入手できる情報を利用する。
- ユニットはアセスメントの信頼性、すなわち公平性、正確性、偏向排除を確実化する手順を有する。
- ユニットは候補生達成度を確定し、プログラムを完了するための説明書きあるいは基準を設定する。
- ユニットは、ユニット、そのプログラム、コース、授業、現場体験、実習の評価、改善を目的として、候補生のアセスメントの結果を利用する。
- 運営とプログラムを評価する上で、ユニットは、コースの検討、実習機会、教員から多様性、ユニットの管理運営、指導体制に関して広く多量の情報を収集し、分析し利用する。

アセスメントと評価のプロセスはデータに基づき、その達成には大幅な時間と資源が要求される。この基準をユニットに適用する初年度は、十分に開発されたアセスメント計画が整備されていなくてはならない。ユニットは、以降毎年、各自のアセスメント・システム履行パフォーマンスデータの収集、編纂、分析、意思決定を行うための説明書きあるいは基準の開発、パフォーマンスのアセスメントが期待される。州の免許交付とアセスメントデータは、現場査察時、検査役チームが使用できなくてはならない。

基準 3 現場体験と実習

ユニットと連携校は、教員志望の候補生と学校専門職員があらゆる生徒の学習支援の上で要求される知識、技能、資質を開発し、それらを実証するよう、現場体験と実習を計画、実施、評価する。

ユニットと連携校の協働

基準不適合

ユニットは、現場体験および実習の性質と配置に関し、受け入れ学校やその他教育機関とは無関係に決定を下す。ユニットの提携校が、現場体験と実習の計画、実施、評価に参加しない。学校の単独責任で、候補生を現場体験や実習に配置する具体的な決定が行われる。

基準適合

ユニット、ユニットの連携校、職業共同体のその他メンバーは、候補生の知識、技能、資質の開発支援を目的として、現場体験と実習を計画、実施、評価する。ユニットと連携校は、適切な学習体験の提供を目的として、教育実習生やその他専門的実務研修生の具体的な配置を合同で決定する。

望ましい成果

学校とユニットは資源と専門知識を共有し統合して、現場体験や実習での候補生の学習を支援する。ユニットと学校に属する教員は共に、ユニットの概念的枠組みと学校プログラムの計画、履行、評価に参加する。すなわち、各々、ユニットと連携校の職業的開発活動および候補生と児童を対象とする指導プログラムに参加する。ユニットと連携校は、候補生と P-12 生徒の学習経験を最大限に高めることを目的として、教育実習生やその他専門的実務研修生の具体的な配置を合同で決定する。

現場体験と実習の計画、履行、評価

基準不適合

現場体験が、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準に示された習熟度の開発と関連しない。現場体験と実習がユニットの概念的枠組みを反映せず、候補生が基準に示された能力を開発する上で支援とならない。実習で、授業と学習を促進するために情報技術を利用する機会が提供されない。実習の期間あるいは集中度が十分でないため、将来目指す役割に伴う全責任を果たす能力を候補生が実証できない。

現場教員に対する基準が理解されていない。現場教員が、熟達した学校教育専門家に期待される知識と技能を実証しない。現場教員が、教育実習生およびその他実務研修生に、定期的かつ継続的な支援を提供しない。

基準適合

現場体験は実習に先立ち、候補生が、学校やその他教育機関観察、生徒個別指導を行う、教員や学校専門職員の手伝い、教育委員会の会合出席、教育に関連した共同体イベ

ント参加、といった機会を提供することで、教育専門家としての成長を促進する。現場体験と実習が共にユニットの概念的枠組みを反映し、基準が示す内容、職業、教育の知識、技能、資質を候補生が継続的に開発する支援となる。実習では、授業と学習を促進する目的で情報技術を利用する機会が提供される。実習の期間あるいは集中度が十分なので、将来目指す役割の習熟度を候補生が実証できる。

現場教員を対象とする基準が明確で、関係者全員に理解されている。現場教員は、学校教育専門家として熟達している。現場教員は観察、会議の開催、グループ討議、電子メール、その他テクノロジーの利用を通じて、教育実習生およびその他実務研修生に定期的かつ継続的な支援を提供する。

望ましい成果

現場体験により、候補生は、生徒および成人が関わるさまざまな状況で内容、職業、教育の知識、技能、資質を応用し、検討することができる。現場体験と実習の両方によって、現場教員による模範提示と適切に策定された行動から学習する機会を通じ、ユニットの概念的枠組みが実践へと拡大適用される。実習期間中の候補生の学習が、学校のプログラムと教育実習に組み込まれる。候補生は観察し、また、観察される。定期的かつ継続的に、教員、大学の監督者、その他実習生と自らの実践に関する相互作用を経験する。自らの実践を検討し、正当性を示すことができる。学校教育チームの一員であり、職業的な決定に積極的に参加する。情報技術の利用を含め、教育および学習の改善を目標とするさまざまな学校中心の活動に参加する。学習に関するデータを収集分析し、生徒の作業を検討し、学習を向上させる方法を開発する。

現場教員はユニットと連携校に共同で選ばれ、学校教育専門家として熟達している。指導と監督の役割を果たすために選抜、養成され、高度に熟達した学校教育専門家としての技能、知識、資質を実証する。

すべての生徒の学習を支援する、候補生の知識、技能、資質の開発と実証

基準不適合

実習を行う候補生に対して、いかなる参加と退去の基準も存在しない。実習に使用されるアセスメントが、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が示す候補生能力と関連しない。候補生が学習に与える効果を、アセスメントで検証しない。候補生のパフォーマンスのアセスメントが、候補生、大学、学校の教員により合同で行われない。現場体験と実習でのフィードバックおよび指導が明白ではない。現場体験と実習が、あらゆる生徒の学習を支援する候補生の知識、技能、資質を実証する機会を提供しない。候補生は、現場体験と実習において、例外性のある生徒、あるいは多様な民族、人種、性別、社会経済集団を背景とする生徒と関わらない。

基準適合

実習を行う候補生に対して、参加と退去の基準が存在する。実習に使用されるアセスメントが、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準が示す候補生の能力と関連する。候補生パフォーマンスおよび学習に与える効果が、複数のアセスメントの方法を用いて評価される。実習全般を通じ、候補生、学校の教員、大学の教員が合同で候補生のパフォーマンスのアセスメントを行う。現場体験と実習の両方で、他の実習生や現場教員からのフィードバックを熟慮し、採り入れる時間的余裕がある。現場体験と実習が、あらゆる生徒の学習を支援する知識、技能、資質を候補生が発展させ、実証する機会を提供する。全候補生が、例外性のある生徒、あるいは多様な民族、人種、性別、社会経済集団を背景とする生徒を含めた現場体験と実習に参加する。

望ましい成果

候補生は、実習参加前と実習中、内容範囲と教育的知識、職業的知識を使いこなせることを実証する。実習で使用されるアセスメントによって、候補生が専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準を満たし、学習にプラス効果を与えることが示される。候補生および現場教員が複数のアセスメントを利用して改善の必要な領域を特定し、改善策を策定する。候補生は、他の候補生や現場教員との協力的な共同作業により、実践向上を目標とし、互いの実践や学習への効果を批評し合い、検討する。現場体験と実習によって、候補生のあらゆる生徒に関連する知識、技能、資質の探求が促進される。候補生は、あらゆる生徒の学習を支援する能力を開発し実証して、学級や学校における例外性のある生徒や多様な民族、人種、性別、社会経済集団を背景とする生徒との関わり合いにより実践してみせる。

補足説明

現場体験と実習は、教員志望の候補生および学校専門職員の初期養成、上級養成において、プログラムに不可欠の要素である。現場体験と実習は、プログラムの内容とレベルに応じた多様な状況で、候補生が知識、技能、資質を応用する機会を提供する。十分に計画を練り、順序立てた現場体験と実習であれば、候補生が教員やその他学校教育専門家としてキャリアを開始、継続する上で必要な能力の開発を促す。学士、学士課程後、修士レベルの教員志望の候補生にとって、教育実習や実務研修は完結的な体験である。大学院レベルで特殊教育教員、校長、学校専属心理カウンセラーなど、新しい職務を目指した養成を進めている候補生は、それぞれの職業毎に、養成プログラム一環として実務研修を完了することが期待される。教員資格を有する教員が上級プログラムの教育を継続する場合、担当している学級や学校を現場体験に利用することが多くなる。

現場体験と実習は、協働、説明責任、職業的な学習に関連した環境と実践を特徴とする。現場体験では、学校を中心として、早期に継続的かつ多様な機会が提供され、候補生は観察、支援、個人指導、指導、応用リサーチを実践できる。実習には生徒への授業と実務研修が含まれ、候補生が学習共同体での集中的な訓練を体験し、各々準備を進めている専門職務の習熟度を実証する機会を提供する。実習では、候補生が授業、学習、その他の職責

を支援する情報技術を利用できる。

ユニットと連携校は、協力して、候補生のパフォーマンスのアセスメントを含めた現場体験と実習を計画し、履行する。学校と大学の教員は、候補生の学習に対して共に責任を負う。連携校は資源と専門知識を共有、統合して、候補生の学習機会を支援し創出する役割と構造を開発する。連携校は教員志望の候補生の指導と監督を行う現場教員¹⁶を選抜し、養成する。

実習の説明責任に含まれるのは (1) 候補生に対する参加と退出の要件適用 (2) 候補生が実証する内容、教育、職業の知識と基準との合致 (3) 早期の現場体験で候補生が実証する習得度 (4) P-12 生徒の学習にプラス効果をもたらす能力を含め、候補生によるユニットが定義した技能、知識、資質の適用 (5) 候補生が実証する同僚、保護者や家庭、地域社会と共同作業を行う技能、である。ユニットと連携校は、候補生を評価する上で、多様なアセスメント・アプローチを使用する。

候補生には、多様な人口集団、例外性のある生徒、異なる年齢層の生徒を含め、さまざまな状況での研究と実践が要求される。候補生は、養成対象の学年、教科、学校での役割（例えば、カウンセラー）の現場に配置される。現場設定には候補生学習が組み込まれる。スケジュール、時間利用、資源は現場教員を支援するものであり、学校という場所に候補生が教員、教育専門家、学習者として参加できる。

基準 4 多様性

ユニットは、候補生があらゆる生徒の学習を支援する上で要求される知識、技能、資質を習得し応用するように、カリキュラムと経験を計画、実施、評価する。この経験には多様な高等教育および学校教員、多様な候補生、P-12 スクールの多様な生徒との作業が含まれる。

カリキュラムと経験の計画、実施、評価

基準不適合

候補生が養成プログラム中に開発しなくてはならない多様性への習熟を、ユニットが明確に示さない。教育者養成のカリキュラムと現場体験が、例外性のある人物を含め、多様な集団と効果的に作業を行える候補生を養成するように立案されていない。候補生が教育と学習における多様性の重要度を理解していない。教育に多様性を組み込む技能を開発せず、学級や学校に多様性を重んじる精神を定着させることができない。候補生の習熟度アセスメントが、あらゆる生徒の学習支援という点で、候補生能力に関するデータを提供しない。

¹⁶ 現場教員には、実習に責任を負う学校教員と高等教育教員の両方が含まれる。

基準適合

候補生が職業プログラム中の開発を期待される習熟度を、ユニットが明確に示す。教育者養成カリキュラムと付随する現場体験が、教育と学習における多様性の重要度を候補生が理解するように立案されている。候補生は多様性を組み込む授業を開発して指導し、多様性を重んじる精神を学級や学校に定着させることを学ぶ。候補生は文化の影響によって形成されるさまざまな教育と学習のスタイルを認識し、例外性のある生徒を含むあらゆる生徒に対し、適切に指導とサービスを施す能力がある。公平性とあらゆる生徒の学習を重視する資質を実証する。候補生の習熟度アセスメントが、あらゆる生徒の学習を支援する能力に関して、データを提供する。候補生のアセスメントデータをフィードバック時に利用して、候補生の知識、技能、資質の向上を図る。

望ましい成果

カリキュラム、現場体験、実習は、多様性に関連する知識、技能、資質を候補生が実証する助けとなる。カリキュラム、現場体験、実習は、多様性と一体性に関して十分に開発された知識基盤と概念化に基づき、候補生が学校で効果的に適用できる。候補生は授業を現況に合わせ、生徒自身の体験や知識からの発現を考慮することを学ぶ。指導上の対話を通じて生徒の意欲を喚起し、認知的複雑性を促し、例外性のある生徒を含めあらゆる生徒の取り組みを実現する方法を学ぶ。候補生と教員は、あらゆる生徒と作業する候補生の能力に関して情報を提供するアセスメントデータを検討し、この面の改善計画を開発する。

多様な教員との共同作業体験

基準不適合

候補生は、大学構内に設定された教室および学校において、多様な民族、人種、性別集団出身の専門教育教員、他のユニット教員、学校教員と、限定的な交流しか行わない、あるいは、全く交流しない。専門教育教員と学校教員が有している多様性に関する知識と体験が限定的である。ユニットは、多様な文化背景を持つ教員によって多様性を高めようと志向しない。

基準適合

候補生は、大学構内に設定された教室および学校において、多様な民族、人種、性別集団出身の専門教育教員、他のユニット教員、学校教員と交流する。候補生が専門教育の学級や実習で共同作業する教員は、例外性のある生徒を含め、多様な文化背景を持つ生徒との作業に候補生を備えるため、関連性のある知識と体験を有している。多様性の価値を肯定する姿勢が、教員の多様性を高める、あるいは維持する誠実な努力に示されている。

望ましい成果

候補生は、大学構内に設定された教室および学校において、多様な民族、人種、性別、言語、例外性、宗教を代表する専門教育教員、他のユニット教員、学校教員と交流する。養成プログラムを通じて候補生が共同作業する教員は、例外性のある生徒を含め、多様な生徒との作業に候補生を備えるため、知識と繊細な感受性を有する。

多様な候補生との共同作業体験

基準不適合

候補生は、大学や学校での専門教育コースにおいて、多様な民族、人種、性別、社会経済集団出身の候補生と、交流や作業を行わない。ユニットが設定する候補生の活動は、多様な背景を持つ候補生の参加を奨励、支援するように立案されていない。ユニットは候補生の多様性を高めることを志向しない。

基準適合

候補生は、大学や学校での専門教育コースにおいて、多様な民族、人種、性別、社会経済集団出身の候補生と、交流や作業を行う。多様な民族、人種、性別、社会経済集団出身の候補生が、教育や内容領域に関連する委員会や教育プロジェクトで共同作業を行う。多様性の価値を肯定する姿勢が、候補生の多様性を高める、あるいは維持する誠実な努力に示されている。

望ましい成果

候補生は、大学や学校での専門教育コースにおいて、例外性のある候補生や多様な民族、人種、性別、言語、社会経済、宗教集団出身の候補生と、交流や作業を行う。学級、現場体験、実習において、多様な文化背景を持つ候補生や異なる体験を持つ候補生の積極的な参加が勧誘、高く評価され、受け入れられる。

P-12 スクールの多様な生徒との共同作業体験

基準不適合

例外性のある生徒や多様な民族、人種、性別、社会経済集団出身の生徒との現場体験あるいは実習に参加しない候補生が存在する。候補生が多様性について熟考し学習にプラス効果を与える技能を開発する上で、それら体験が助けとならない。

基準適合

候補生があらゆる生徒と作業する知識、技能、資質を開発できるように、例外性のある集団や多様な民族、人種、性別、社会経済集団出身の生徒を含めた現場体験あるいは

実習が計画される。候補生は、他の候補生や監督者からのフィードバックによって、あらゆる生徒の学習を支援する能力の検討を促される。

望ましい成果

候補生と例外性のある生徒および多様な民族、人種、性別、社会経済、言語、宗教集団出身の生徒との交流を奨励する目的で、広範かつ実質的な現場体験と実習が計画される。それら体験は、指導や学習に影響を及ぼす多様性問題に候補生が向き合い、学習や候補生の教員としての有効性を向上させる方法を開発する上で、助けとなる。

補足説明

アメリカの学級はますます多様化している。P-12 学級では、生徒の 1/3 以上が少数集団の出身である。移民家庭からの生徒数が増加しており、その多くは英語以外の言語を母国語とし、宗教的な背景も多様である。能力的な障害があると分類される生徒の数も増加している。その一方、少数集団出身の教員は教員陣の 15%未満に過ぎない。そのため、生徒のほとんどは、多様な教員陣による恩恵を体験する機会がない。教員志望の候補生は、多様な背景を持つ生徒や例外性のある生徒と作業する能力を開発し、あらゆる生徒に学習の機会を保証する必要がある。候補生は、居住地域における多様度の高低に関わりなく、アメリカ合衆国と世界の多様性に関する知識、相違を尊重して価値を認める資質、多様な状況で作業する技能を開発しなくてはならない。

この基準の目標のひとつは、あらゆる生徒の学習を支援する能力があり、また、多様な文化背景を持つ生徒の歴史、経験、象徴性を考慮する多文化的かつグローバルな視点から指導できる教育者の開発である。したがって、ユニットは、教育と学習のプロセスに多様性と公平性が果たす役割を候補生に理解させる機会を提供する。講義、現場体験、実習は、教育に及ぼす文化の影響を候補生が理解し、あらゆる生徒にとって有意義な学習体験を開発する能力を習得する支援として計画される。候補生は例外性と一体性、性差、それらが学習に及ぼす影響を学習する。関連する能力は、資質や多様性に関連する能力を含め、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準を参照する。候補生は能力を明確に理解し、ユニットのパフォーマンス・アセスメント・システムの一環として評価される。

現場体験と実習は、学校におけるあらゆる生徒との作業に、例外性を含む多様性の知識を応用できる教育者の開発を支援する。現場体験と実習は、多様な民族、人種、社会経済集団出身の生徒や家庭を含んだ学校や地域社会において、候補生が観察や実践について熟考する機会を提供する。現場教員は、現場体験や実習として、候補生が多様性の概念を処理できる学習経験を計画し、パフォーマンスに関するフィードバックを候補生に提供する。

多様な集団出身の候補生と教員は、ユニットのカリキュラム、教育学理論、構成に関して、文化的に有意義な方法で情報を提供する。多様性を備えた教育プログラムは、複数の視点や異なる人生経験から教育と学習にアプローチする上で、候補生の助けとなる。職業的な開発や教職に、さまざまな見解を与える。教員や候補生に広範囲な背景と経験を付与して、異なる背景を持つ同僚との理解と交流を増進する。この点で、ユニットは多様な文

化出身の候補生と教員を募集、承認、雇用、保持する。定期的に監督、改訂する計画によって、多様な出身者を確保、維持する指針を提供することも考えられる。

候補生は、在学中、特に職業養成プログラムを通じて、自分と同じ背景あるいはその他の背景を持つ成人、児童、青少年と交流する機会がある。候補生が関わる他の候補生、高等教育教員、学校教員、P-12の生徒は、多様な民族、人種、言語、宗教、社会経済の背景と歴史を持っており、アメリカや世界のさまざまな地域出身の女性であり、男性なのである。また、候補生には、例外性のある成人や生徒と作業を行う機会がある。

基準5 教員¹⁷の資格、パフォーマンス、開発

教員は資格を有し、候補生のパフォーマンスと関連して自らの有効性のアセスメントを行うなど、学問、サービス、指導における最良の職業的実践の模範を示す。また、専門分野や学校の同僚と協働する。ユニットは体系的に教員の実績を評価し、職業的な開発を促進する。

資格を有する教員

基準不適合

専門教育教員の多くが博士号を取得していない。専門教育教員が、職務にふさわしい専門知識や現代の職業経験を有していない。必ずしも学校教員全員が指導分野の資格を有していない。必ずしも高等教育の現場教員全員が、学校における職業的な経験を有していない。

基準適合

教育機関の専門教育教員が、博士号あるいは職務にふさわしい優秀な専門知識を有している。学校教員は、指導または監督する分野の資格を取得しているが、多くの場合、博士号は取得していない。高等教育の現場教員は、学校において、監督レベルで現代の職業経験を有している。

望ましい成果

教育機関の専門教育教員は博士号あるいは優秀な専門知識を修得しており、学校において、監督レベルで現代の職業経験を有し、関連する学問に有意義に取り組む。現場教員（高等教育教員および学校教員）全員が指導または監督する分野の資格を取得しており、優れた教員であると評価されている、あるいは専門とする分野の能力が広く評価さ

¹⁷ 教員とは、高等教育機関に雇用されている専門教育教員と実習を監督する学校教員の両者を指す。

れている。

指導における最良の職業的実践の模範

基準不適合

教員は、各自の専門分野に関して、限定的な理解しか有しない。候補生にとって、教員の指導が内容との関わりをほとんど示さず、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準に概略された習熟度を達成する上の助けとならない。教員は少数の指導方法しか使用せず、これらの方法は教育および学習に関する現在のリサーチを反映していない。教員が指導の場で情報技術の利用を模範的に示すことがめったにない。教員の大多数が、教員としての自らの有効性のアセスメントを行わない。教員の多くは、担当している学級あるいは監督下の候補生の学習状況をアセスメントするシステムを開発していない。

基準適合

教員は指導内容を完全に理解している。専門教育教員による指導は、ユニットの概念的枠組みおよび専門分野と教育におけるリサーチ、理論、現在の進展を反映している。教員は候補生の学習を評価し、候補生のパフォーマンスをアセスメントする。候補生の熟考、批判的思考、問題解消、職業的資質の開発を助成する指導を行う。さまざまな学習方法に関する理解を反映して、多様な指導方法を活用する。多様性と技術を指導全般に組み込む。教員としての自らの有効性について、候補生の学習とパフォーマンスに及ぼす建設的な効果を含めて、アセスメントを行う。

望ましい成果

教員は専門分野を徹底的に理解しており、教員兼学者として、専門分野の内容、教育、学習に関する現代の知識を指導の実践に組み込む。その知的活力が、重要な問題に対する繊細な感受性として示される。専門教育教員による指導はユニットの概念的枠組みを反映し、適切なパフォーマンス・アセスメントを組み込み、講義、現場体験、実習を通じ多様性と技術を採り入れる。教員は候補生の学習を評価し、候補生の学習強化を目指して指導を適切に修正する。アセスメント技術を理解し、自らの有効性を把握するために多様なアセスメント形式を利用し、そのデータを実践の向上に生かす。ユニット教員の多くは、大学および学校全体の候補生や同僚から、卓越した教員であると評価される。

学問における最良の職業的実践の模範

基準不適合

専門教育教員の大多数が、学校教員を養成する専門家にふさわしい学術作業に積極的に取り組まない。

基準適合

専門教育教員が専門分野における学術作業を実証する。ある程度、所属する教育機関の使命に基づき、多様な種類の学術作業に従事する。

望ましい成果

専門教育教員は、指導、学習、専門分野に関連する学術作業を実証する。専門分野における知識の発生から探査と探求、そして指導姿勢の有効性評価にいたるまで、活発に追求する姿勢を備えている。

サービスにおける最良の職業的実践の模範

基準不適合

大学へのサービス活動に積極的に参加する専門教育教員が、ほとんど存在しない。教員が、学校に対して、職業的に期待されるレベルでのサービスを限定的にしか提供しない、あるいは全く提供しない。積極的に専門団体に参加する、もしくは地域、州、国内、国際の各レベルで教育関連サービスを提供する教員がほとんど存在しない、あるいは、全く存在しない。

基準適合

専門教育教員が、大学、学校、より広範囲な共同体に対して、教育機関およびユニットの使命に合致した方法でサービスを提供する。P-12 スクールを実践の場とする専門教育界に、積極的に参加する。専門団体に積極的に参加する。地域、州、国内、国際の各レベルで、教育関連サービスを提供する。

望ましい成果

専門教育教員は、専門教育と P-12 スクールの両教育プログラムの立案と実施に関し、積極的に対話に参加する。学校で同僚と共同作業する。州、国内、国際の各レベルで、職業、学校、専門団体に対する指導力を発揮する。

協働

基準不適合

専門教育教員と他大学のユニットの教員の間には協働関係が存在しない、あるいは協働関係が非常に限定的である。専門教育教員と学校の同僚との協働関係が、現場体験の監督と学習に限定されている。

基準適合

専門教育教員は、指導、候補生の学習、教育者養成の向上を目的として、定期的かつ体系的に、P-12 環境の同僚、他大学のユニット教員、より広範な専門共同体のメンバーと協働する。

望ましい成果

教員は、学習者共同体として、学級の概念的枠組みと育英に積極的に取り組む。P-12 スカールの同僚や教育機関の他ユニットの教員との関係、プログラム、プロジェクトを構築して、知識基盤の開発と発展を目指し、リサーチを実施し、プレゼンテーションを行い、資料を発表し、あらゆる生徒の教育の質を改善する。

ユニットによる専門教育教員のパフォーマンス評価

基準不適合

ユニットは体系的かつ定期的に専門教育教員を評価しない。実施される評価が、実践の改善に利用されない。

基準適合

ユニットは、専門教育教員の能力と知的活力の強化を目標として、教員の指導能力を体系的かつ包括的に評価する。専門教育教員の評価は、ユニットの教員の指導、学術、サービスを向上する目的に利用される。

望ましい成果

ユニットの体系的かつ包括的な評価は、専門教育教員の指導、学術、サービス、専門共同体との協働、教育機関および職業における指導力に関して、定期的かつ包括的な検討を含む。

ユニットによる専門能力の開発促進

基準不適合

専門能力の開発と教員の評価に関連性がない。教員が専門能力を開発する活動に取り組むことを、ユニットが奨励しない。

基準適合

ユニットは、教員の評価によって明らかとなったニーズに基づいて、特に概念的枠組み、パフォーマンス・アセスメント、多様性、技術、他の新たな実践との関連において、教員が新たな知識や技能を開発する機会を提供する。

望ましい成果

ユニットの方針と慣習によって、専門教育教員全員が学習を継続する姿勢を維持することが奨励される。経験を積んだユニット教員は、先輩として、教育、探求、サービスにまつわる学問的な作業の進展を奨励、支援して新参の教員を指導する。

補足説明

高等教育および連携校の教員は、全国学校に配属する優れた専門教育者を開発する上で決定的な役割を果たす。これら教員は、教育や学習にまつわる神話や誤解に対抗して、候補生をリサーチや優れた実践へと導くことができる。優れた指導模範を示すことで、候補生が多様な指導方法を発展させあらゆる生徒の学習を促す助けとなる。自らの職務と学習に熱心に取り組む教員が示す知的活力は、監督下にある候補生が専門能力の開発を継続する環境を作り出す重要な要素である。

教員は、候補生と P-12 生徒の学習を職責の中心課題とする。学習者共同体として積極的に取り組み、優れた教育の模範を示す。自らの実践を体系的に追及、熟考し、一生を通じて専門能力の開発に努力する。教員は、多様性の価値を認め、理論、リサーチ、最高度の実践を根拠とする綿密かつ適切な養成プログラムの開発、履行、評価に指導力を発揮する。指導、学習、教員教育の改善を目的として、大学や専門共同体のメンバーと協働する。あらゆる生徒を対象とする質の高い教育、教育課題に関する国民の理解、優秀かつ多様な教職者を擁護する。また、教員教育の改善に貢献する。¹⁸専門団体に積極的に参加し、地域、州、国内、国際の各レベルにおいて、教育関連サービスの提供や指導力を実証する。

専門教育教員は、教員兼学者として、自らの職業に伴う教育と学習を高く評価する。教育、学習、教員教育に関連する学術作業の中から一つあるいは複数の領域を追求し、貢献する。教育、学問、サービスに、知的活力を示す。学問は広範囲に定義され、従来のリサーチや発表に留まらない。学問的な追及として、知識の応用、新たな状況における現在のリサーチ成果の解釈あるいは統合、綿密かつ体系的な教育学の研究なども考えられる。あらゆる学問的追求には、作業成果を提出して専門的な検討と評価を受けることが含まれる。

教員の役割のひとつは、専門分野における新たなリサーチや進展中のリサーチ、また新しく登場した理論や実践を認識することである。教員は、職務に情報を提供するリサーチや実践に関して、理解を深める努力を続ける。専門教育教員は、自らの職務で、パフォーマンス・アセスメントを活用する模範を示す。自らの指導が候補生の学習に与える効果のアセスメントを行い、明らかになった事柄を利用して実践を強化する。また、多様性と例外性に関連する知識と技能を拡大し、これらの概念を教育に組み込む。自らの職務促進と候補生の学習支援を目的とする技術の活用に関連して、継続的に技能を開発する。教員は、自ら率先する専門能力開発活動、あるいはユニットが実施、後援、手配した専門能力開発活動に参加して、教育能力と知的活力を強化する。

¹⁸ これら期待は、Association of Teacher Educators 『Standards for Teacher Educators』に準拠する。

専門教育教員のパフォーマンスに関するユニットの責任には、候補生と同僚の両方による体系的かつ包括的な教員評価が含まれる。この評価は、教員の実践する教育、学問的貢献、サービスの質に関するデータを収集できるよう考案し、専門能力開発活動の提供と支援を通じて、教員の向上を図る目的に利用される。

基準6 ユニットの管理運営と資源

ユニットは、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準を満たす候補生の養成に向けて、指導体制、権限、予算、人材、施設、情報技術資源を含む資源を有する。

ユニットの指導体制と権限

基準不適合

ユニット指導体制とその権限の段取りが、教員および学校専門職員を養成するプログラムの一貫した計画、履行、運営を実現していない。ユニットは、候補生が基準を満たすことを目的として、全プログラムを効果的に管理、あるいは調整していない。協力する P-12 教員およびその他実践教育者を、プログラムの立案、履行、評価に効果的に参加させていない。募集と入学に関するユニット慣行について、出版物やカタログに、明確な、あるいは一貫した記述がなされていない。学校の予定表、カタログ、出版物、評点方式、広告が不正確である、矛盾している、および／あるいは時期的に無効である。ユニットは、候補生に対して、アドバイスやカウンセリングなど、候補生を対象としたサービスへのアクセスを保証しない。大学内あるいは教育界の内部で、ユニット指導力が認められていない。

基準適合

ユニットは、一貫性のある学習プログラムを計画、履行、運営する指導体制と権限を備えている。ユニットは、候補生が基準を満たすことを目的として、全プログラムを効果的に管理、あるいは調整する。募集と入学に関するユニット慣行が、出版物やカタログに、明確かつ一貫して記述されている。学校の予定表、カタログ、出版物、評点方式、広告が正確であり、時期的に有効である。ユニットは、候補生に対して、アドバイスやカウンセリングなど、候補生を対象としたサービスへのアクセスを保証する。教育者養成に参加する教員、P-12 の実践者、専門共同体のその他メンバーが、プログラムの立案、履行、ユニットとユニットのプログラム評価に参加する。ユニットは、ユニット教員と専門教育者養成に関与する教育機関内の他ユニット教員との協働を図る機構を提供し、協働を促進する。

望ましい成果

ユニットは、P-12 スクールで勤務する教育専門家の養成を目的とした教育機関の全プログラムを、効果的に調整する指導体制を備えている。募集と入学に関するユニット慣行が、出版物やカタログに、明確かつ一貫して記述されている。学校の予定表、カタログ、出版物、評点方式、広告が正確であり、時期的に有効である。ユニットは、候補生に対して、アドバイスやカウンセリングなど、候補生を対象としたサービスへのアクセスを保証する。ユニットとその他の教員は P-12 の実践者と協働して、ユニットとユニットプログラムを立案、履行、評価する。専門教育者養成に関与する教育機関内の他ユニットの同僚、学校要員、その他組織が、ユニット指導力を認める。ユニットは、教育機関の他ユニットにおいて、教員に有効な教育の専門的開発を提供する。

ユニットの予算

基準不適合

ユニットへの予算割当が、総額として、あるいは学内の他ユニットもしくは他大学内の同様のユニットと比較して、候補生が基準を満たすために必要なレベルのプログラムに対応しない。

基準適合

ユニットは、基準を満たす候補生を養成するプログラムを提供するため、少なくとも学内の他ユニットもしくは他大学内の同様のユニットに釣り合った、十分な予算を割り当てられている。予算は、専門教育者の養成に不可欠な学内と現場での作業に十分に対応する。

望ましい成果

ユニットへの予算割当により、ユニットだけでなく P-12 教育と教育機関内の他のプログラムを含めた範囲で、教員が教育、学術、サービスを実践することが可能である。カリキュラム、指導、教員、現場作業、学術、その他に割り当てられた予算により、ユニットと連携校内における質の高い作業が支援される。

人材

基準不適合

ユニットのオンライン講座を含めた作業負荷方針では、教員が効果的に指導、学術、アセスメント、アドバイス、P-12 との協働、サービスに取り組むことができない。学内とオンラインにおける教員の作業負荷が、概して、大学指導で 12 時間、大学院指導で 9 時間を超過する。実習監督をする常勤の平均的教員 1 名に対して、候補生数が概して 18 名を超える。ユニットが非常勤教員や大学院生助手を使用する結果、プログラムの一貫性や全体性が損なわれる。サポート要員の人数が不足しているため、基準を満た

すという目標に向けた教員の有効性と候補生の進歩が制限される。技術利用のトレーニングを含め、専門的な開発機会が制限され、その結果、プログラムの質に弊害が生じる。

基準適合

ユニットのオンライン講座を含めた作業負荷方針により、教員は指導、学術、アセスメント、アドバイス、P-12校での協働作業、サービスに効果的に取り組むことができる。学内とオンラインでの教員の作業負荷が、概して、大学指導で12時間、大学院指導で9時間を超過しない。実習監督をする常勤の平均的教員1名に対して、候補生数が概して18名を超えない。ユニットは、常勤、非常勤、現場の各教員のほか、大学院生助手を適切に利用するため、プログラムの一貫性と全体性が確保される。ユニットは十分な人数のサポート要員を提供するので、プログラムによって基準を満たす候補生を養成できる。技術利用のトレーニングを含め、教員の専門的開発を実現する十分な資源と機会が提供される。

望ましい成果

作業負荷方針と実践によって、教員が指導、学術、アセスメント、アドバイス、学校での作業、サービスなどの広範な専門的活動に取り組むだけでなく、共同体、州、地域、国内を基盤として専門的に貢献することを容認、奨励される。教員の作業負荷を決定する上で、オンライン講座の履行を含め、正式な方針と手順が設定される。ユニットは、教育助手の養成を含め、プログラムを強化する意図で、非常勤教員と大学院生教育助手を採用する。現場教員は、教育者養成における貴重な同僚として、ユニットに加えられる。ユニットが提供するサポート要員は、候補生を教育し指導する上で、教員の有効性を大幅に強化する。ユニットは、教員を対話に参加させる専門的な開発活動と新たな理論や実践に関連する技能開発を支援する。

ユニットの施設

基準不適合

大学と学校の施設が機能的でない、あるいはメンテナンスが不十分で、候補生が基準を満たすという目標に向けて進歩できない。候補生が現在の技術を利用できない。

基準適合

ユニットは適正な大学と学校の施設を有し、基準を満たすという目標に向けて、候補生を支援する。これら施設により、教員と候補生は情報技術を指導に利用できる。

望ましい成果

ユニットは、学内に、また連携校と共に優れた施設を有し、基準を満たすという目標に向けて候補生を支援する。施設は最先端技術に対応し、その結果、教員は技術の利用

を模範的に示し、候補生は教育を目的とした技術の利用を実践できる。

技術を含むユニットの資源

基準不適合

候補生が基準を満たすことを妨げられる不平等な方法で、資源がプログラムに割り当てられている。ユニットのアセスメント計画の開発や履行に使用できる資源が乏しい、あるいは皆無である。情報技術資源が非常に限定されているため、候補生が情報技術の利用を体験できない。教員および候補生に対し、満足な最新の図書館やカリキュラムという資源あるいは電子情報へのアクセスが提供されない。

基準適合

ユニットは、専門分野の基準を満たす候補生養成を目的として、資源をプログラムに割り当てている。ユニットのアセスメント計画を開発し履行する、十分な資源を提供する。ユニットは、教員と候補生を支援できる、十分な情報技術資源を有する。教員および候補生に対し、満足な最新の図書館やカリキュラムという資源および電子情報へのアクセスを、併せて提供する。

望ましい成果

ユニットは、優秀で模範的なプログラムとプロジェクトを支援するため、積極的な資源確保を成功させて、基準を満たす候補生を確実に養成する。ユニットのアセスメント・システムの開発と履行には、十分な資源が割り当てられる。ユニットは、教育プログラムだけでなく教育機関、共同体、その他教育機関を含めた広い範囲で、教育の情報技術資源として機能する。教員と候補生は、ユニットに制限されない広範な支援団体に役立つ図書館、カリキュラム、電子情報の各模範的資源にアクセスできる。

補足説明

専門教育者を養成するカリキュラム、指導、資源の運営と管理において、ユニットは重要な指導的役割を果たす。教育機関内におけるプログラムの管理的位置付けに関わりなく、ユニットは、教育機関で養成される学校要員全員の質に対する責任を負う。このように、教員とその他専門的 school 要員の初回および継続的な養成を目標に、教育機関提供の全プログラムを、ユニットが直接的に管理あるいは調整することが期待される。この点で、ユニットは、P-12 スクールの教育者のみならず、全学内の文系、理系、他ユニットの同僚と協働する。

ユニットは、プログラムを立案、履行、評価するために、学校の実践者および教育機関の他ユニットの教員と管理陣を含めた構造と管理運営システムを考案、確立、維持している。このシステムの主要な要素は、基準 2 で記述されているとおり、候補生のパフォーマンスデータの収集と利用を含むアセスメント・システムの開発と遂行であり、候補生が基

準を満たすことの確実化が目的である。

ユニットとユニットの教員は、知的活力、最高度の指導実践、学術を促進する職場風土を創出している。方針と職務によって、教員は指導、学術、サービスに効果的に参加できる。教員の負荷には、コースとコースのコンポーネントおよび候補生への電子サポートオンライン提供に要する時間を考慮しなくてはならない。教員は積極的に学校に携わり、教員や学校専門職員と協働して、養成プログラムを考案、評価、実施する。職務では、学校およびその他大学教員と協働する時間が与えられる。

ユニットは、候補生が専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準を確実に満たすことを目的として、適切な人数の要員と十分な資源を維持する。初回および継続的な教育者養成プログラムでは、大学内、学校環境、時には地域教育機関で作業を行い、総仕上げとして教育実習や実務研修を行うことが要求される。他の専門分野と同じく、教育の現場作業にも適切な資源が必要である。大学の指導教員だけでなく学校もフィードバックを与え、指導を行って、専門職業、州、教育機関それぞれが設定する基準で期待される知識、技能、資質を候補生が確実に実証できなくてはならない。学校に勤務する教育者を養成する全プログラムを教育機関が提供するには、質の高い現場体験と実習の遂行を含め、情報技術資源を含む十分な資源が必要である。